

## 2/12 協同組合交流集会 ワールドカフェ まとめ

テーマ「『協同組合間連携』～新たなビジネスモデルを考える～」

### A班

- ・ 広報活動の共有化  
県産の農林水産の地産地消をめざす
- ・ Iターン、Uターン者を利用者として確保する  
生活支援事業や職業体験などで協同組合を身近に感じてもらう
- ・ 他組合との連携、一本化（組合員の優遇を共通に）

### B班

- ・ 各団体が集うフェア
- ・ 助け合い連携のサポート
- ・ 体験村などの運営（山・川など自然を利用）  
先生は地元の方が、子供、大人共に楽しめるものを
- ・ 県外からの移住者、高齢者に対する生活サポート

#### 「協同組合モール」の設立

- ・ 各団体の販売店舗、体験施設、相談窓口、PR活動
  - ・ 団体間でコラボした店舗
  - ・ 子供も遊べるテーマパーク、診療所
- ⇒期待できる効果
- ・ 協同組合を知ってもらう事ができる
  - ・ 事業量の確保
  - ・ 県外からの移住者の増加、地域活性化
  - ・ 生活サービスのワンストップ化

### C班

- ・ 組合タウンを作る  
病院、金融、販売店、畑、森、ビルメンテナンスなど
- ・ 協同組合同士で農業を行う（若手が中心となって）
- ・ 組合員同士の連携を増やす

#### 組合の町「ユニオンタウン」の設立

- ・ 各組合の共有窓口があり、事業利用ができる 地産地消につながる
- ・ Uターン、Iターン者が住みやすい場所へ  
→森林組合の材木を使って家を建てると、住宅金利が安くなる  
行政とも連携し、公共サービスも充実も

## D班

- ・トヨタタウンのような協同組合の町をつくる
- ・各団体共通の広告塔やマスコットの作成
- ・協同組合内で使用できる通貨
- ・大規模災害などの緊急時の連携  
→食料・救急セットの備蓄、金融機関の連携など

## E班

- ・共同開発  
→類似商品の集約化
- ・組合員増加のための周知  
→どういった中身の組合なのか、異なる組合間での相互紹介
- ・組合間の利用  
→契約に対して、他組合の事業紹介など

## 協同組合の体験村（総合案内所）

子供達への教育の一つとして活用してもらう

- それを通じて協同組合を知ってもらい、将来的な組織拡大につなげる
- 組織拡大によるサービスの向上

## F班

- ・協同組合全体の広報活動（統一モデル）
- ・小規模な協同組合フェス（足を運んでもらえるような）
- ・小学校への教育活動
- ・県内企業との連携（木製フィギア制作など）
  
- ・協同組合間サービス  
外：体験複合施設 内：福利厚生サービスの充実
- ・協同組合内通貨（ポイント）の導入など  
→サービス利用や施設来場などでポイント付与  
貯めたポイントによる特典やサービスを受けることができる  
以上の周知を各協同組合で一括に行う（自己事業のみの宣伝ではない）